

# 「平和憲法を守る会」

ニュースNo156 2023. 5. 11発行

かながわ  
平和憲法を守る会  
神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2  
かながわ県民活動サポートセンター内238  
TEL 090-1105-6980  
FAX 042-797-7486  
郵便振替 00250-3-85449  
平和憲法を守る会

## 第27回かながわ平和憲法を守る会総会

第27回かながわ平和憲法を守る会総会  
第86回平和憲法を守る 神奈川県民集会  
日時 5月21日(日)13時半～13時15分開場  
場所 県民センター1501  
講師 呉東正彦(弁護士・本会代表委員)  
「どこにも基地はいらない～米軍基地の増強・強化にどう抗するか！」

## 2022年度かながわ平和憲法を守る会の活動

5月8日、かながわ県民センターで本会の第26回総会、第83回平和憲法を守る神奈川県民集会を開催した。総会では、事務局長の瀬川から、21年度の活動と決算を報告、また、22年度の役員と活動計画を提案し、共に拍手で承認された。新役員には、新たに代表委員として大波修二さん、副代表委員に山城恵子さん、事務局次長に杉山隆次さんが選出された。総会後には、元湘南教組委員長の竹村雅夫藤沢市議が、『教科書問題から考える教育への「逆流」のいま』と題して、歴史教科書の採択結果、育鵬社を激減に導いた市民の闘い、道徳教科書の問題点などについて記念講演した。

竹村さんは、歴史教科書における育鵬社版の不採択への取り組みとその問題点を指摘した。また、育鵬社版の出て来た背景である日本会議や日本教育再生機構の実態について提起した。続いて、安倍政権が教育基本法の改悪、免許更新制の導入、「道徳」の教科化など教育への政治的介入の実態を明らかにし、学校現場が破壊された現状を報告した。日本学術会議の任用問題も含め、今後も続く教育への逆流の危険性を指摘した。教科



書問題も含め、教育問題の重要性、市民との連帯が大事であり、この攻撃は憲法改悪と一体であることを学びあえた。

12月10日に不戦の誓いの集い第84回平和憲法を守る神奈川県民集会を開催した。「沖縄復帰50年・沖縄戦を振り返り・本土復帰・沖縄の今」と題して沖縄大学地域研究所特別研究員の毛利孝雄さんを講師に開催した。毛利さんは、沖縄問題は何かとして、「本土」とは異なる沖縄の近現代史をアジア侵略の入口としての琉球併合から、沖縄戦、そして「復帰」の前提に27年間の〈アメリカ世〉があると問題提起した。沖縄戦では、米英軍による「鉄の暴風」によって住民4人に1人が亡くなった地上戦、日本兵による住民被害・虐殺など、戦争の恐ろしさを明らかにした。また、不発弾処理、開発計画を困難にする所有者不明土地問題、放置される戦没遺骨など戦争が今も終わっていないとした。続いて27年間の沖縄統治問題、「復帰」後50年の特徴点に触れた。キーワードは、オキナワンカルチャーとウチナーンチュの誇りとした。「台湾有事」に自衛隊の参戦と南西諸島の戦場化を前提とした軍事化の急速な展開に触れ、辺野古移設だけでなく、「沖縄を再び戦場(いくさば)にさせない」ために沖縄は大同団結することが求められている。沖縄の民衆運動の最大の特徴は、辺野古ゲート前、安和、塩川など「現場」の持つ力だとし、それに「本土」は変わりうるのか。私が変わりえたとすれば、「本土」の人たちも変わりうる。無関心や誤りを正していく、人間の営為の持つ力を信じたい。1人でも多くの人に沖縄の「現場」に立ってほしい。全国に沖縄と出合い、つながり、考え続ける人たちの生まれることを、心から願っているとまとめた。沖縄戦の現実、今も残る沖縄戦の被害、沖縄での闘いから、二度と沖縄を戦場にしてはならないこと、不戦の誓いを確認するものとなった。



2月4日に「紀元節」復活＝「建国記念の日」に反対し、改めて「皇民」化教育を問う第85回平和憲法を守る神奈川県民集会を開催した。「戦争は教室から始まる『元軍国少女』北村小夜が語る」と題して、北村小夜さんを講師に開催した。北村さんは、自分が受けた戦前の教育の実例をあげながら、今の教育の状況をしっかりと捉え、今頑張らなければという想いを語った。天皇制護持・賛美の「君が代」が、解説をごまかしながら、今は全ての教科書に「君が代」がのり、各学年で指導することになっている問題を指摘した。また、当時の教室の写真から、軍国少女がいかに作られたかをていねいに説明、修身が「道徳」となり、教科化を通して算数で「道徳」の関連を示すような教科書会社の例から、教育活動全分野で「道徳」教育が教室で展開されていると問題提起した。戦前は、唱歌(音楽)が修身(道徳)の手段であったが、今も同じ状況であるとし、共通教材として文部省唱歌が入れられ、軍国主義そのものの「われは海



の子」は、歌詞を3番までにすることで、その本質を隠している。戦前の唱歌は、「となえうた」であり、修身の手段であった。そして、修身で習ったことを国語で繰り返したどり、さらに唱歌で歌った。教育勅語の本質も明らかにし、今の教室の状況が、戦前と同様になってきたとその危険性を訴えた。97歳になる北村さんは、反天皇制・反戦こそが、民主教育の基本であるとした。北村さんの生き方から元氣をもらい、民主主義を教室から取りもどすことの必要性を確認した集会であった。

11月5日に第26回かながわ反戦ツアーを開催した。会の代表委員でもある大波修二大和市議(第五次厚木爆音訴訟団長)のガイドで、高座渋谷駅に集合して、厚木基地南部の公園大和ふれあいの森まで歩き、基地を見ながら説明を受けた。厚木基地は、大和・綾瀬市にまたがる人口密集地域にあり、長年墜落事故や激しい騒音に悩まされていた地域、静かな空を求めて現在爆音訴訟は第五次訴訟を行っている。



土曜日のため、飛来する飛行機は少なかったが、説明と見学の1時間の間にも飛行機は離発着をしていて、ジェット機の騒音はひどいものであった。米軍機が岩国基地に移駐したため、国は騒音被害は減ったとして、騒音区域の縮小を目論んでいるが、相変わらず米軍機は飛来し、自衛隊機も含め、騒音被害の現状は変わっていないことが説明された。墜落事故はないものの、部品の落下事故は毎年続いていて、オスプレイがこの1ヶ月で30機以上も飛来し、墜落の危険性も含め、住民の不安はなくなっていないと指摘した。また、去年は化学・生物・放射能・核(CBRN・シーバーン)対応訓練が、住宅地そばで7ヶ月間も行われ、大量殺戮兵器対応の訓練に住民に大きな不安を与えた。見学後、渋谷学習センターに移動し、パワーポイントを使って、厚木基地の機能と被害の実態、厚木爆音防止期成同盟の闘いなどの説明が大波市議からあった。目の前に広がる基地と隣接する住宅地を見て、その危険性を改めて確認するとともに、静かな空を取り戻す闘いに一緒に歩むことを確認できた取り組みとなった。最後に、大波大和市議から、爆音訴訟や基地撤去に向けた闘いに連帯を求められるとともに、平和の議席を守るために来年の統一地方選挙への出馬の決意が述べられ、参加者一同の拍手で集会を終えた。

平和憲法を守る会ニュースを150号～156号まで2カ月に1回発行、毎月1回の幹事会を開催した。

## 横浜ノースドック米軍揚陸艇の部隊新編近況と空母の交代

4月11日の18時45分頃、横浜ノースドックに、ヘリコプターが飛来し、飛行場でもヘリポートでもないノースドック中央部の陸地側の、コンクリート敷きの駐車場のあたりに着陸し、1分ほどすると再び浮上し、高度を上げて飛び去って行った。

4月24日14時11分頃には陸軍のブラックホークヘリコプターがグラウンドに着陸した、昨年10月末にも、横浜ノースドックで米軍ヘリが離着陸・周回飛行訓練を行っている。夜間離着陸(訓練)やタッチアンドゴー訓練、港内周回飛行訓練などを米軍は横浜ノースドックにおいて繰り返し行っていると思われる。

横浜ノースドックに係留されてきた米陸軍揚陸艇(LCU:Landing Craft Utility)は少なくとも2隻(今年2月1日に横浜を出港して2月6日に那覇軍港に到着したフォート・マクヘンリー(FORT MCHENRY LCU 2020)と、2月27日に横浜を出て3月3日に那覇軍港に到着したカラボザ(CALABOZA LCU 2009))が実際に運航され使用されている。米



パシフィック・ファルコンとLCUポート・ハドソン

軍画像サイトDVIDSには、陸軍LCUカラボザが第3海兵遠征軍を輸送していることを示す写真も掲載されている。今年1月の日米2プラス2では、沖縄の第12海兵連隊を改編して第12海兵沿岸連隊(MLR)とすることと、横浜ノースドックに陸軍揚陸艇部隊を「新編」することが同時に発表されており、米軍画像サイトDVIDSには、陸軍LCUカラボザが第3海兵遠征軍を輸送していることを示す写真も掲載されている。こうした中で横浜市の発表では防衛省からの情報提供の概要・横浜ノース・ドックにおいて、小型揚陸艇部隊は予定どおり4月16日に新編された。と、そっけないもの。



陸軍揚陸艇LCU(Landing Craft Utility)

翌4月17日には、米国船籍の民間タグボートのパシフィック・ファルコン(PACIFIC FALCON)

が、LCU(米陸軍揚陸艇)ポート・ハドソン(PORT HUDSON LCU 2035)を曳航して横浜ノースドックを出港した。3月20日に同じような姿で横浜を出港してハワイに向かい、途中でトラブルが起きたようで、3月24日に横浜に引き返していた。

横浜ノース・ドックへの小型揚陸艇部隊の新編に関する山中竹春横浜市長コメントについて(4月14日)では「本日、防衛省から部隊の新編について情報提供がありました。市民の不安を払拭するためには、今後の動きに関して、さらに情報が必要と考えます。国には、引き続き、適時適切な情報提供と、市民生活の安全・安心に影響を及ぼすことのないよう対策を講ずることを、求めてまいります。」としている。

横浜市によると、16日ごろから5人程度の幹部要員が管理業務のために常駐を開始し、部隊は約280人で構成される方針で、残りの人員は来年にかけ順次配置されるという。船舶の運用開始時期は未定だということ。黒岩祐治知事は「周辺への影響を最小化する対策の実施を国に求めた」としている。

4月20日の13時20分頃にも横浜港上空に2機編隊の米空軍UH-1Nヘリコプターが飛来し、またもノースドック周辺の上空で、低空での周回飛行を繰り返し、ノースドックでのタッチアンドゴーを繰り返していた。

横浜港上空も、そして横浜ノースドックも、米軍の飛行訓練空域には指定されていないはずだが、市も県も黙認なのだろうか。

一方、横須賀基地では定期修理を行っていた原子力空母ロナルド・レーガンから、4月20日、放射性廃棄物を搬出する作業が行われ、防衛省南関東防衛局横須賀防衛事務所からの情報として横須賀市が発表したところによれば、今回搬出された放射性廃棄物入りコンテナは4個だったそうだが、そもそも日米両政府は公文書のエードメモワールで、米軍の原子力艦船の日本の基地への入港にあたって、動力装置の修理を日本国内で行わないこと、放射性廃棄物を艦外に出して日本に持ち込まないことを約束している。そして在日米海軍司令部は28日に原子力空母を、現在の「ロナルド・レーガン」から同型艦の「ジョージ・ワシントン」へ2024年後半に交代すると発表した。燃料棒の交換時期が近づき、レーガンの改修や、艦船の海外展開の期間を10年以内と定めた米国防権限法などが交代の理由とされている。ワシントンは08年から15年まで横須賀に配備され、17年から米国で燃料棒の交換や艦橋新造などの大規模更新工事を行っており、23年中に完了する見通しだとされている。

杉山隆次(事務局次長)

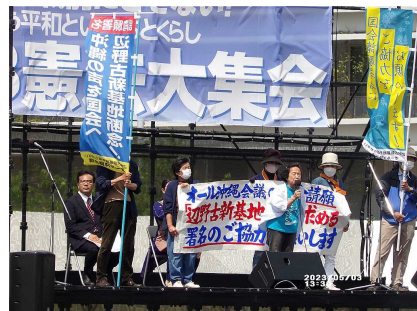
**コロナで委縮させられつづけてきた3年のモヤモヤを吹き飛ばして、反戦・反軍拡・反改憲！岸田政権打倒の大結集を！**

## あらたな戦前にさせない！守ろう平和といのちとくらし 2023憲法大集会

『あらたな戦前にさせない！守ろう平和といのちとくらし 2023憲法大集会』が5/3、有明防災公園で開催され約2万5千人が参加した。

11:00からはサブステージで『自由に話そうトークイベント』を開催、憲法を清末愛砂さん（室蘭工業大学教授・憲法学）、貧困・労働については竹信三恵子さん（和光大学名誉教授）、軍拡・敵基地攻撃・安保3文書では清水雅彦さん（日本体育大学教授・憲法学）、関東大震災・朝鮮人中国人虐殺100年について山本すみ子さん（関東大震災時朝鮮人虐殺の事実を知り追悼する神奈川実行委員会代表）、沖縄は泉川友樹さん（沖縄大学地域研究所特別研究員）、南西諸島の軍事要塞化は前園美子さん（馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会副会長）が語った。

13:00からはメインステージでの開催、清末愛砂さん（室蘭工業大学教授・憲法学）、泉川友樹さん（沖縄大学地域研究所特別研究員）が登壇し、「物価上昇で厳しい生活を強いられているという切実な声がある。防衛費の財源確保を優先し、立憲主義の核の一つである公平な分配が否定されている」と指摘。さらに「憲法9条を無視し、軍事的優位性を確保することを『防衛』の名の下で正当化するものだ」



と訴えた。東村アキコさん（漫画家）がビデオメッセージを寄せた。憲法を破壊し続ける政権への鋭い批判があった。国会議員では立憲・れいわ・共産・社民からスピーチがあった。共産党志位委員長は、「射程2000キロ、3000キロの超音速ミサイルを沖縄に配備すると中国がすっぽり射程にはいる。このどこの専守防衛か。日本はアメリカのもとで攻撃する戦争国家に変わり、戦火を日本に呼び込むものだ。止めなくてはならない」と力説した。社民党の福島党首は「私の好きな言葉がある。それは“平和と平等は手を携えてやってくる”である。しかしその反対に“戦争は差別排外主義と手を携えてやってくる”のだ。これを止めなくてはならない。私たち一人ひとりが平和の砦となって、あらたな戦前にさせないために立ち上がろう！」と訴えた。



14:30からはデモ、私たちは・改憲発議を許さず、憲法をいかし、平和といのちとくらしと人権を守ります。・軍拡と敵基地攻撃能力保有の閣議決定を撤回し、外交努力での平和を求めます。・辺野古新基地建設と南西諸島へのミサイル基地配備の中止を求めます。・エネルギー危機を口実とした原発推進政策に反対します。・ジェンダー平等の社会をめざします。・これら実現のため岸田政権の暴走をストップさせ、安心してらせる社会をめざします。を沿道に訴えた。



## 社会民主党・新社会党共同宣言

### 「新しい戦前にさせない！ 平和力の結集へ」

昨年12月、岸田政権は、敵基地攻撃能力の保持を認め軍事費の大幅増額・大增税に踏み込む「安保三文書」を閣議決定しました。これは戦後の安全保障政策の大転換であり、平和憲法を空文化する、許してはならない暴挙です。

日本は「専守防衛」を投げ捨て、アメリカとともに戦争する国へと歴史的な変貌を遂げようとしています。軍需産業を育成し武器輸出をすすめ、学術研究や民間空港・港湾などの軍事利用が強行され、教育や情報などあらゆる分野で軍事化が進みます。いま止めないと、声を上げないと、日本の平和は保てません。

軍事費増大は、くらしやいのちのための予算の削減になります。年金や医療・介護、子育て・教育のための予算が最優先であり、私たちは非正規・貧困社会からの脱却をめざします。

「3・11」福島の重大事故がなかったかのような原発新增設や、60年越え老朽原発の稼働など脱原発からの大転換は許せません。地球環境保全や防災対策は待ったなしです。

武力で平和はつくりえない—これは人類の歴史の教訓です。「抑止力」の名の下、

軍事力の増強は近隣諸国と果てしない軍拡競争となります。結局は「核武装」に行きついてしまいます。

私たちは78年前の敗戦の教訓から平和憲法・9条を手にししました。戦場に送られた若い兵士たち、原爆や空襲、沖縄戦の犠牲者たち、亡くなった方は350万人にも及びます。そして何よりも日本のアジア諸国への侵略と植民地支配で亡くなった方はゆうに2千万人を超えるのです。

もう二度と戦争はしない、非武装の平和な日本を創る、その決意の中で憲法9条は生まれました。私たちは平和憲法をないがしろにする動きを断じて拒否します。それはすべての戦争犠牲者の遺言でもあります。

日本のすべての平和力が結集し、ともに立ち上がることを呼び掛けます！

日本を軍事国家にさせてはなりません。

沖縄・南西諸島そして日本を絶対に再び戦場にはさせません。

外交と交流の信頼関係で東アジアの平和を創ります。

私たちがめざすのは、非武装・非同盟の日本であり、

憲法のもと、生活といのちが最優先される平和国家への道です。

2023年5月3日憲法記念日にあたり

よびかけ 社会民主党・市民共同

社会民主党 党首 福島みずほ

新社会党 委員長 岡崎 宏美

## 各地の市民運動から(紹介)

### 【キャンプ座間と座間駐屯地に申し入れ】

4月15日、雨の中、バスストップから基地ストップの会は、キャンプ座間と座間駐屯地に申し入れ行動をやった。「アメリカ軍と自衛隊に申し入れます。私たちにとって基地は危険なだけです。すぐに市民に返して、出て行って下さい。この地球上に平和な市民の生活が取り戻せるように心から願います。」と申し入れた。米兵と基地従業員と陸自隊員と人の出入りの多い日だった。申し入れ書を受取りに来た自衛官には最後に、「戦場で死なないで」と訴えた。座間駐屯地には第4施設群が配置されていて、東富士演習場の整備などを任務としている。《S》

### 【第94回神奈川メーデー】

5月1日、恒例の第94回神奈川メーデー（神奈川地域労働運動交流、神奈川ユニオン協議会、神奈川県共闘などによるメーデー実行委員会主催）が、開催されました。反町公園での集会、沢渡公園までのデモ行進。240人が参加した。《S》



## 【2023憲法を考える5.3県民集会】

2023憲法を考える5.3県民集会「迫る改憲発議ー旧統一教会・自民党の闘ー」が5月1日、かながわ県民センターで開催された。講師は、有田芳生さん。「統一教会と自民党の闘」その闘の深さ根強さを語っていただいた。「勝つか負けるかではなく、闘うか闘わないか」という有田さんの姿勢、素晴らしいものだった。

「統一教会の素顔ー改憲勢力拡大が参院選(22年)の目的だったー」とし、2022参院選で統一教会と政治家が結んだ政策協定「憲法改正・安全保障体制の強化」。信者は「死にものぐるいで」自民、維新、国民民主を応援したと報告。聖地についても話しがあつた。ヘイトでも何でもない真実。2022参院選で憲法改正のため「死にものぐるい」の闘いに勝利したという統一教会。自民、維新、国民民主の候補者に同意書もらい応援したそう。普段コンビニで目にする商品も例をあげ、本当に統一教会が身近で恐ろしい存在だという事を思い知らされもした。神奈川県選出の自民党国会議員の公設秘書に信者がいることも踏まえ、憲法を蹂躪しよとする動きには一人ひとりの力を集め押し返す。闘う姿勢が大事。黙さず闘うことの必要性を学んだ集会だった。《杉山》



## 告知板

### @止めよう！琉球弧の戦場化2.25横浜集会

～山城博治さんを迎えて～

日時 5/25(木) 18:30～ 資料代800円  
会場 神奈川県民センターホール  
主催 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会 090-4822-4798深沢

### @基地撤去をめざす県央共闘会議第24回定期総会記念講演

日時 5/27(土) 総会14:00～ 記念講演15:15～  
会場 大和市生涯学習センター610会議室 ON LINE配信あり 無料  
講師 吉田敏浩(ジャーナリスト)  
「安保3文書を読み解くー軍事拡大路線にこうするために」  
主催 基地撤去をめざす県央共闘 macoyan@jcom.home.ne.jp

### @ドキュメンタリー映画「命の水」上映会＋トークイベント

日時 6/24(土) 14:00～ 無料  
会場 大和市生涯学習センター601講習室  
主催 基地撤去をめざす県央共闘

メールアドレスをご登録いただくと最新の集会の案内等を送ります。

このニュースも見ることができます。

「平和憲法を守る会ニュース」への投稿をお待ちしています。

下記まで、お送り下さい。

かながわ平和憲法を守る会 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2-238

TEL 090-1105-6980 e-mail e-kaihou@nifty.com e-kaihou@ezweb.ne.jp